

新正副議長決まる



議長
立石 泰 広



副議長
岡田 静 佳

御挨拶

議員の皆様のご御推挙により、第127代埼玉県議会議長の職を拝命いたしました立石泰広でございます。

誠に身に余る光栄であり、心より感謝を申し上げますとともに、歴史と伝統ある埼玉県議会の議長という職責の重さに身が引き締まる思いであります。

さて、本県議会においても、臨時会や特別委員会などにおいて対応を協議してまいりました新型コロナウイルス感染症は、5類移行という一つの節目を迎えました。しかしながら今後も、再度の感染拡大も念頭に置きつつ、県民の皆様が安心して生活できるよう取組を進めなければなりません。また、人口減少、加速する少子高齢化など、私たちが乗り越えなければならない課題は山積しており、諸課題を解決するための鍵となるDXも進めていく必要があります。

さらに「埼玉県議会業務継続計画」の実効性を確保する防災訓練の実施など、非常時における議会機能の継続に万全を期してまいります。

私たち議員は、さきの選挙を通じて、多くの県民の皆様の声に耳を傾けてまいりました。この声をしっかりと受け止め、現場を重視した議会活動を通して誠実にその職務を果たし、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に基づき、県民誰もが安心して豊かに暮らせる郷土埼玉を築いていくために、ソーシャルインクルージョン、社会的包容力の充実が求められます。そのためには、議会がチェック機能を最大限に発揮することはもちろん、議員同士が活発に議論し、社会状況に即して政策提案を行っていくことが極めて重要であると考えております。

二元代表制の一翼を担う県議会がその役割と責務を果たせるよう、これまで培った経験を生かし、公平、公正かつ円滑な議会運営に全力で努めてまいります。

議員の皆様、並びに大野知事をはじめ執行部の皆様には、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、私の就任の挨拶といたします。

御挨拶

このたび、議員の皆様のご御推挙により、副議長という要職に就かせていただきました岡田静佳でございます。大変な名誉でありますとともに、本県議会初の女性副議長としてその重責に、身の引き締まる思いであります。

現在、我が国の人口構造に目を向けますと、人口減少、少子高齢化の進行により社会は大きく変わろうとしています。先ごろ発表された将来推計人口において、2070年には人口が8,700万人と2020年の時点から約3割減少するとともに、生産年齢人口が50年間で約4割減少する見通しが公表されました。

経済活動の停滞が懸念される中でも生産性の向上に向けた取組や、今後の社会保障制度の在り方も見据えた少子化対策などをより一層推進することが求められています。

さらに、県民生活に大きな影響を与えているエネルギー価格や物価高騰、女性の活躍と男女共同参画の推進など、多くの課題に対して、政策形成機能を強化していかなければなりません。

二元代表制の一翼を担う私たち県議会が、県民の皆様のご選挙により御負託いただいた議員をもって組織されるという位置付けを常に忘れず、議員全員で知恵を出し合い、議論を尽くしていく必要があります。

私も、人格識見とともに卓越した立石議長のもと、公正かつ円滑な議会運営に努め、県政の更なる発展のために、女性としての視点を大切に全力を尽くす決意でございます。

議員の皆様、並びに大野知事をはじめ執行部の皆様には、格別の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、副議長就任の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。